第３次印西市環境基本計画への意見対応一覧【１．策定基本方針】

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
1	策定委員会	企画政策課	資料名	「第３次印西市環境基本計画策定の基本方針（案）」を「第３次印西市環境基本計画の策定基本方針（案）」としてはどうか。	修正	素案では、策定基本方針を「計画の基本的な考え方（第1章）」とした。	1～
2	策定委員会	農政課	１　計画策定の趣旨	「食品ロス削減推進法」とあるが、「２計画の位置付け及び策定にあたっての基本的視点」では、「食品ロスの削減の推進に関する法律」とあるので、表記を統一した方がよいと思われる。	修正	「食品ロス削減推進法」を「食品ロスの削減の推進に関する法律」へ修正した。	2
3	策定委員会	農政課	１　計画策定の趣旨	「～食品ロス削減推進法など新たな法整備が進められるなど、～」とあるが、「など」の重複は避けた方がよいと思われる。	修正	「～食品ロス削減推進法など新たな法整備が進められるなど、～」を「「食品ロスの削減の推進に関する法律」などの新たな法整備が進められており、」へ修正した。	2
4	策定委員会	農政課	１　計画策定の趣旨	「現計画」を「第2次計画」と記載した方がよいと思わる。（現計画が第2次計画を指していると思われない可能性がある。）	修正	「現計画」を「第2次計画」へ修正した。	2
5	策定委員会	クリーン推進課	２　計画の位置付け及び策定にあたっての基本的視点	「２　計画策定における基本的視点」について「（４）食品ロスやプラスチックに係る関連法令へ対応した施策の検討」を削除してはどうか。 計画の位置づけとの整合性や基本的視点の他の項目とのバランスから考えて不要と考える。	修正	項目立てを含め該当箇所の書き方を変更した。 （（1）～（4）の項目立てをなくし、文章での説明とした）	3
	策定委員会	クリーン推進課	２　計画の位置付け及び策定にあたっての基本的視点	「２　計画策定における基本的視点」について「（2）国や県の環境基本計画との整合（ＳＤＧｓの考え方の取入れ）」「（3）地球温暖化対策実行計画（区域施策編）及び地域気候変動適応計画の内包」の順としてはどうか。 市総合計画や関連する計画、国や県の環境基本計画との整合を図ることは当然であり、そのうえで、その他記載の計画を内包するのであれば、各項目説明文の内容及び参考資料中の計画の位置づけから上記の順がよいと考える			
7	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		1 計画策定の趣旨、2 計画の位置付け及び策定にあたっての基本的視点	「印西市の強みであり、誇りでもある自然環境の保護・保全」を最重要課題の一つとして位置付けることをお願いしていたが、今回の策定基本方針（案）の「1 計画策定の趣旨」または「2 計画の位置付け及び策定に当たっての基本的視点」に全く記載されていない。開発により変わってきている現状に触れて、今後も、印西市の住みよい環境における大きな魅力である里山環境を守ることをしっかりと位置付けてはどうか。	修正	「1-1　計画策定の趣旨」に、以下の文章を追加した。 「また、印西市内では、人口増加や企業進出による経済的な発展とともに、これまで受け継がれてきた里地里山環境の維持が特に求められる状況にあります。」	2
8	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		1 計画策定の趣旨、2 計画の位置付け及び策定にあたっての基本的視点	「1 計画策定の趣旨」にも「2 基本的視点」の中にも、自然や里山という言葉を入れてはどうか。	回答	「自然」や「里山」は第4章（環境施策の展開）や第5章（重点プロジェクト）などで扱うこととする。	―
9	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		―	印西市はグリーンインフラに恵まれた町であり、グリーンインフラの機能を生かすことについても入れてはどうか。	回答	グリーンインフラ機能の活用については、第5章（重点プロジェクト）で具体的に記載する。	―
10	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		―	印西市としての課題を環境基本計画の骨子にすべきと考える。例えば、小さなことであるが、不法投棄、ごみのぽい捨て、たばこの吸い殻の防止等が、この印西市の環境評価につながる。やはり、印西市独自の地に着いた計画の策定をお願いしたい。	回答	ご意見頂いた具体的な課題は、第4章（環境施策の展開）で扱うこととする。	―

第3次印西市環境基本計画への意見対応一覧【2. 骨子案（現状と課題等）】

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
1	策定委員会	都市整備課	1.計画の概要 （2）計画の位置づけ	緑の基本計画は環境基本計画の下部ではなく、連携する計画と考える。	修正	図の修正を行い、「印西市緑の基本計画」を「市の関連計画や事業」として示した。	3
2	策定委員会	企画政策課	２．取り巻く環境と本市の状況 （１）国内外の動向＜国内＞	温室効果ガス排出量　２６％　→　４６％ ２０２０年１０月に菅総理が「カーボンニュートラル」を宣言し、政府一丸となって脱炭素社会への取組みを推進する状況となったことも記載した方がよいのではないか。	修正	「2-3　国内外の動向を含めた環境情勢」に、以下の文章を追加した。 (5)日本における脱炭素化への動き 　日本では菅内閣総理大臣所信表明演説（2020年10月）において、「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、～ 　日本は「2030年の温室効果ガスの削減目標を2013年度比46.0%とし、さらに、50%の高みに向けて挑戦を続けていく」と表明しました。	23
3	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議	／	２．取り巻く環境と本市の状況 （１）国内外の動向＜国内＞	SDGsの目標13についてしか述べられていないが、目標6、7、9、11、13、14、15、17が関わってくると感じる。	修正	「3-2　計画とSDGsの関連」に、関連するSDGsの目標を示した。	26
4	策定委員会	クリーン推進課	２．取り巻く環境と本市の状況 （１）国内外の動向＜国内＞	【食品ロスの削減の推進に関する法律 2019年】の説明文について、「自給率の低い日本にとって食品ロスは重要な課題」を「食品ロスは環境問題だけでなく食料問題としても重要な課題」に変更してはどうか。 食品ロスは、特に日本にとって重要という事ではなく、世界的に重要な課題である。 なお、自給率の低さは、食料の大量消費の影響が世界に波及しやすいという点で問題なことから、むしろ他国にとって重要な課題である。	修正	ご意見を基に、「2-3　国内外の動向を含めた環境情勢」における食品ロス問題の中で、「食品ロスは食糧問題及び環境負荷の双方において重要な課題となっています。」と示した。	22
5	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議	／	２．取り巻く環境と本市の状況 （１）国内外の動向＜国内＞	「２．取り巻く環境と本市の状況」に3、4年前に施行された建築物省エネ法を記載してはどうか。建物の省エネルギー性能について、2000平米以上の建物は届出義務だったものが適合義務になり、今年の4月からは300平米以上の住宅以外の建物についても適合義務となる。これは、建物の環境負荷を減らすための施策であり、国内の動向に加えても良いと考える。	修正	「建築物省エネ法」はエネルギーの観点から地球温暖化対策に関連すると考えられることから、「2-3　国内外の動向を含めた環境情勢」の「(1)環境に関する近年の主な社会の動き・できごと」に追加した。	20
6	策定委員会	農政課	２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	・少子高齢化による農林業の担い手減少 ⇒耕作放棄地等の増加による生態系サービスの劣化等 ●少子高齢化も担い手減少の要因ではあるが、担い手減少の直接の要因は、農林業の後継者不足や離農者の増加と考える。	修正	「少子高齢化による農林業の担い手減少」を「農家における後継車不足や産業構造の変化に伴う離農者の増加～」へ修正した。	33
7	環境審議会		２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	「少子高齢化による農林業の担い手の減少」とある。農林業の担い手の減少は少子高齢化ではなく、構造的な問題が大きいため、「少子高齢化による」という枕詞を除いてはどうか。			
8	策定委員会	農政課	２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	・少子高齢化による農林業の担い手減少 ⇒耕作放棄地等の増加による生態系サービスの劣化等 ●「耕作放棄地等の増加」とあるが、近年の統計値からみると一概に増加傾向とは言えない。	修正	「耕作放棄地等の増加による生態系サービスの劣化」を「遊休農地となることで人の手が入らなくなり動植物の種類が乏しくなる」へ修正した。	33

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
9	策定委員会	農政課	２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	・少子高齢化による農林業の担い手減少 ⇒耕作放棄地等の増加による生態系サービスの劣化等 ●「生態系サービス」とは、具体的にどのようなことを指すのか。	回答	「生態系サービス」とは、生物・生態系に由来し、人々に利益となる機能全般を指す。例として、漁業資源や森林資源といった物質的な物のほか、防災機能や気候の調整機能など様々な要素を含む。 また、計画書で「生態系サービス」を用いる場合は、用語解説に記載する。	―
10	策定委員会	都市整備課	２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	・手賀沼、印旛沼におけるCOD濃度は微増傾向 ⇒環境基準を大幅に超過 「微増傾向」だと、少ししか増していないというイメージで、次の「大幅に超過」と別のイメージになってしまうため、改善していない旨の表現の方がいいのではないか。	修正	「手賀沼、印旛沼におけるCOD濃度は微増傾向」を「近年は環境基準を大幅に超過したまま微増傾向で推移しており、～」へ修正した。	42
11	策定委員会	クリーン推進課	２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	「・不法投棄件数は高い水準で推移」を「・不法投棄発生件数は高い水準で推移」に変更してはどうか。 なお、ここでいう「高い水準」とは、何と比較して高い水準なのか。現行の環境基本計画の目標値（Ｈ３３）と比較したものか。	修正	「不法投棄件数は高い水準で推移」を「過去の500件近い件数からは大幅に減少していますが、近年の発生件数ははほぼ横ばいで推移しており、～」へ修正した。	49
12	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		２．取り巻く環境と本市の状況 （２）本市の状況	「市内における特定外来生物の定着⇒従来の自然環境・里山環境の劣化」とあるが、誤解を招く記載である。従来の自然環境・里山環境の劣化は、開発とか農地の荒廃が大きな原因であり、特定外来生物が原因であるものはごくわずかと思う。カミツキガメが悪いから印西市の里山が駄目になったとはならない。	修正	「従来の自然環境・里山環境の劣化」を「本市特有の生物や生態系にとって大きな脅威となっている～」へ修正した。	35
13	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		３．第2次計画の評価 1 自然環境	「種数の維持が自然環境の保全と必ずしも『マッチしていない』」とあるが、在来種が減り、外来種が増えていることを表現してはどうか。	修正	指摘箇所を以下の通り修正した。 「生きものの生息・生育種数」について、近年は外来種数も増加しており、種数の維持が自然環境の保全と必ずしもマッチしていないと考えられるため、指標の見直しが必要である。 ↓ 生きものの生息・生育種数は概ね維持できていますが、把握している種数は外来種を含むものであり、その割合は増加傾向にあるため、在来種及び外来種を区別した指標を設け、種数の変化を把握する必要があります。	7

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
14	策定委員会	都市計画課	3．第2次計画の評価 2 生活環境	『師戸川のBOD濃度や・・・・超過しており、生活排水の流入が考えられるため、』の表現であるが、生活排水の流入は師戸川・印旛沼・手賀沼の水質汚濁の原因の一つとして考えられるが、生活排水の流入が最も負荷を与えているものではないため、『県・流域市町村と連携して水質汚濁の原因や対策（印旛・手賀）の検討・実施を進める必要があり、（その上で師戸川を含め市ができることとして）生活排水の流入も水質汚濁の原因の一つと考えられるため浄化槽の普及促進・・・』 といった表現も検討してはどうか。（汚濁原因の全てが生活排水によるものではない事を暗に示すもの）	修正	指摘箇所を以下の通り修正した。 ・「下水道普及率」や「下水道整備率」は順調であるが、師戸川のBOD濃度や印旛沼・手賀沼のCOD濃度は基準を超過しており、生活排水の流入が考えられるため、高度処理型合併処理浄化槽の普及及び適切な維持管理の推進が必要である。 ↓ ・師戸川のBOD濃度については、生活排水のみならず、農業用水・肥料等の複合的な影響が考えられるため、水質汚濁の原因を明らかにし、対策の検討・実施を進める必要があります。	8
15	策定委員会	財政課		○印旛沼・手賀沼のCOD濃度について、流入河川ではなく沼自体の数値を使っていることから、水質悪化の原因が印西市由来なのか、他自治体なのか不明である。原因となる流入河川等を表記するなど変更されたい。 ○清水都市計画課長から意見があったように、水質汚濁の一番の原因は生活排水ではなく面源系及び沼自体の沈殿物が主となっている。生活排水対策の継続の必要性は認められるが、対策の主眼は違うところにあると思われることから表記変更されたい。			
16	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議			印西市環境白書には、亀成川・神崎川のBOD濃度は基準値内で、師戸川が基準値を超過しているとあるが、前回の議事録では、生活排水だけでなく農業用水・肥料等の影響を指摘されていたことを踏まえると、一般家庭の生活排水だけが原因であるとは考えられない。			
17	策定委員会	財政課	3．第2次計画の評価 2 生活環境	○合併処理浄化槽補助金の普及とあるが、平成30年度50,526千円、令和元年度47,154千円、令和2年度49,364千円（決算見込）、令和3年度82,700千円（予算）となっている。予算は増加の傾向にあるが、浄化槽の普及率と水質汚濁の関連性について検証はされているか。予算をかけているが数値改善されないのであれば、予算配分の優先順位が下がる。 ○浄化槽の適切な維持管理について、項目としてあげるのはよいが、維持管理経費を公費負担することの無いように注意されたい。下水道は使用料により維持管理をしているため、格差が出てしまう。	未修正	浄化槽における維持管理費について、施策等における公費負担は検討しないこととする。	―
18	策定委員会	クリーン推進課	3．第2次計画の評価 3 都市環境	3．現行計画の評価３ 都市環境「耕作放棄地や竹林の中など人目につきにくい場所への放棄が発生している。」を「山林の道路脇など人目につきにくい場所での放棄が多く発生している。」に変更してはどうか。	修正	「耕作放棄地や竹林の中など人目につきにくい場所への放棄が発生している。」を「山林の道路脇など人目につきにくい場所での投棄が多く見受けられる～」へ修正した。	9
19	策定委員会	都市整備課		「人目につきにくい場所への放棄」⇒「人目につきにくい場所への投棄」			
20	策定委員会	企画政策課	3．第2次計画の評価 3 都市環境	ふれあいバスに関する記載があるが、都市環境ではなく地球環境ではないか。	修正	ふれあいバスに関する記載を、「3.都市環境」から「4.地球環境」へ修正した。	10
21	策定委員会	都市整備課	3．第2次計画の評価 4 地球環境	「１人あたりの二酸化炭素排出量」は順調であるが、… どう順調であるかを記載した方がいいのではないでしょうか。	修正	指摘箇所を以下の通り修正した。 『「1人当たりの二酸化炭素排出量」は順調であるが、』 ↓ 『「1人当たりの二酸化炭素排出量」は基準年度を下回っていますが、』	10

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
22	策定委員会	財政課	３．第2次計画の評価 4 地球環境	３．現行計画の評価　４　地球環境 太陽熱利用システムについて。2019年の補助件数が0件、補助制度廃止を検討すべき。	未修正	補助制度の廃止については、施策の検討と並行して、県や周辺自治体の動向を踏まえて検討することとする。	―
23	環境審議会		3.第2次計画の評価 5 人づくり	「若者世代を巻き込む施策が必要」とあるが、若者世代を巻き込むことは難しい。印西市には企業が多数あるため、企業参加を要請することがいいと思う。他市町村において、地域企業が自然環境保全に参加する、または資金供与するといった事例がある。印西市でも、企業に参加を要望する処置の実施について検討してはどうか。	修正	「若者世代を巻き込む施策が必要である。」を「若者世代及び企業の参画を促す施策や活動団体の枠にとらわれない環境活動への参加のあり方などを検討する必要があります。」へ修正した。	11
24	環境審議会		3.第2次計画の評価 5 人づくり	「情報発信の一元化」について、例えば、こども劇場とタイアップして田植えをやるとか、市民団体の活動内容とか、市と企業が協働した対応とか、市民がアプローチできるような環境保全に関心がある企業情報等の発信を強化してはどうか。	修正	指摘を受け、以下の通り修正した。 環境情報や環境関連イベント情報の発信元が統一されておらず、情報発信の一元化を図る必要がある。 ↓ 市民・事業者・行政による環境情報や環境関連イベント情報の発信元が統一されておらず、環境に関心のある市民が十分に情報を受け取れていないことから、情報発信の一元化を図る必要があります。	11
25	策定委員会	農政課	５．課題	・斜面林や農地を含めた里山環境の保全について、グリーンインフラの考え方～ ●農政課では、グリーンインフラの考え方の取入れや若者世代に限定した取組推進の計画はないが、「推進する必要がある」と記載すれば、どこかの課で取り組む必要が出てくると推察されるが問題ないか。	回答	グリーンインフラについては、全体につながる考え方として「2-3　国内外の動向を含めた環境情勢」及び第5章（重点プロジェクト）において示すこととした。	21 ・ 67
26	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議			里山環境の保全にグリーンインフラの考え方を取り入れるという言い方ではなく、まちづくりも含めた印西市の里山保全のためには、グリーンインフラ機能を生かすとしてはどうか。課題だけでなく、全体の骨子として、趣旨の中にグリーンインフラに関する記載を入れてはどうか。			
27	策定委員会	農政課	５．課題	・地域住民と協力して、道路沿いや人目につきにくい耕作放棄地等～ ●「耕作放棄地等における不法投棄の防止対策」とあるが、耕作放棄地への不法投棄件数はそれほど多くなく、山林への不法投棄の方が多いと思われる。 したがって、「耕作放棄地等」でなく「山林等」の方が実態に沿うのではないか。	修正	「道路沿いや人目につきにくい耕作放棄地等における不法投棄」を「山林の道路脇など人目につきにくい場所での投棄」へ修正した。	9
28	策定委員会	クリーン推進課		「道路沿いや人目につきにくい耕作放棄地等における不法投棄」を「道路沿いや人目につきにくい場所における不法投棄」に変更してはどうか。			
29	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		―	グリーンインフラという言葉は、今までにあまり使われていない言葉なので、環境基本計画の中の用語解説等で説明をしてはどうか。	回答	頂いたご意見を踏まえ、用語解説のほか「2-3　国内外の動向を含めた環境情勢」及び第5章（重点プロジェクト）において示すこととした。	21 ・ 67
30	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		―	責任を持ってペットを飼うことや、フンを必ず持ち帰ることを記載してはどうか。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―
31	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		―	4月に国は2030年までに2013年度比温室効果ガス46%削減を表明している。また、カーボンニュートラルの宣言をしているため、2050年は実質ゼロとなる。印西市における温暖化対策も環境基本計画に明記し、国の政策に対応した内容にしてはどうか。	回答	本計画では、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」及び「気候変動適応計画」を内包するものとし、第4章（施策体系の展開）及び第5章（重点プロジェクト）においては、カーボンニュートラル実現のための施策を示すこととした。	―
32	環境審議会		―	環境に関して積極的な企業の環境主管部門にアプローチして、地域に住んでいる従業員に対して情報展開してもらうことを検討してはどうか。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―

第3次印西市環境基本計画への意見対応一覧【3. 骨子案(施策体系)】

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
1	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		全体	印西市の独自性があまり感じられない。今、印西市で最も何が必要か重点を置いた書き方をして欲しい。印西市独自でまず何をやるという重点項目を記載する方向で考えていただきたい。	回答	本資料は計画全体を示すものであり、環境基本計画は環境分野全般を網羅する必要がある。 印西市独自の重点項目については、第5章（重点プロジェクト）として示していくこととする。	65～
2	策定委員会	企画政策課	【将来環境像】	タイトル「将来都市像」は総合計画の将来都市像と混同される可能性があるため、変更していただきたい。	修正	「将来都市像」を「将来環境像」へ変更した。	25
3	策定委員会	財政課		印西市総合計画において「将来都市像」がある。 資料１において、環境基本計画は総合計画の環境分野を具象化したものであることから、「将来目標」等にしたほうがよいとおもわれる。 印西市として何本も都市像があるのはいかがかと思う。			
4	策定委員会	都市整備課	【将来環境像】 生活環境	・生活環境 「空気や水が…まちをいじするために…」⇒「空気や水が…まちを維持するために…」	修正	誤字の修正を行った。	―
5	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【将来環境像】 循環型社会	資源循環にはSDGsの目標7のエネルギーを入れてはどうか。	修正	SDGsの目標7を追加した。	53
6	策定委員会	クリーン推進課	【将来環境像】 循環型社会	印西市総合計画（令和３年度～令和１２年度）との整合性 理由 「3-1 不法投棄の抑制・防止対策」については、どちらかというと「生活環境」に関わる問題であり、「資源循環」とはやや異なる内容に思われる。 今回策定する環境基本計画の施策体系に「資源循環」を新たに設け、環境美化活動や不法投棄防止事業を位置づけるには、左欄「資源循環」の説明では関係性がよくわからないのではないか。 カテゴリを移動させるか、カテゴリ名を変更した方が整合が取れると思われる。	修正	「生活環境」では、環境基本法に基づく典型7公害（大気汚染、水質汚染、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）を扱っている。 国の環境白書においては、「循環型社会の形成」において不法投棄が扱われていることから、カテゴリ名を「循環型社会」へ修正した。	―
7	策定委員会	都市整備課	【将来環境像】 循環型社会	「…、ごみの更なる原料…」⇒「…、ごみの更なる減量…」	修正	誤字の修正を行った。	―
8	策定委員会	企画政策課	【将来環境像】 脱炭素社会	脱炭素社会の欄に「ゼロカーボンシティ宣言」と記載されているが、宣言で取り組みの方向性を示し、施策体系（4－1，4－2，4－3）で具体化させる流れになるのか。	回答	「ゼロカーボンシティ宣言」は2050年における目標として示し、具体的な取組は第4章（環境施策の展開）において示す。	―
9	策定委員会	クリーン推進課	【将来環境像】 脱炭素社会	「脱炭素社会」は他の施策と並列でよいか。「脱炭素社会」のワードはより全体的なものとして使用し、項目の内容は「資源循環」に含めてもよいのではないか。	未修正	「脱炭素社会」の実現は国で示された新たな方針であり、市民会議等でも非常に関心の高い項目であることから現状のままとする。	―
10	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【将来環境像】 人づくり	人づくりのところには、SDGsの目標4の教育と17のパートナーシップを入れてはどうか。	修正	SDGsの目標4及び目標17を追加した。	60
11	環境審議会		【施策体系】 里地里山環境	次期計画は「自然環境」「生活環境」「資源循環」「脱炭素社会」「人づくり」とあり、この方がよいと感じた。いっそ「自然環境」については、「里山自然環境」としてはどうか。	未修正	「自然環境」には水辺環境も含まれることから、「里地里山環境」は個別目標として挙げることとし、基本目標のカテゴリ名「自然環境」は現状のままとする。	―

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
12	策定委員会	農政課	【施策体系】 里地里山環境 1-1	●「里山環境の保全」とあるが、「里山」に限定した場合、農地は関係ないように捉えかねない。農地を含めたいなら「里地・里山環境の保全」とした方が良いのではないか。 ※関連箇所（資料２含む）も併せて修正が必要と思われる。 ●前述を踏まえ、タイトルを「里地・里山の保全」とした場合、サブタイトルは、「農地・谷津の保全」と「樹林地・斜面林の保全」とあるが、「里地の保全」と「里山の保全」とした方が良いのではないか。	修正	「里山環境の保全」を「里地里山環境の保全」へ修正した。 サブタイトルは、「里地（農地）の保全」及び「里山（樹林地・斜面林）の保全」とした。 ※「谷津」は農地（谷津田）・斜面林・樹林地の総合的な保全が必要との観点より、文言としては削除した。	33～34
13	策定委員会	都市整備課	【施策体系】 里地里山環境 1-1	農地・谷津の保全の取り組みの中で、谷津の保全につながるものはあるか。環境保全型農業が該当するのか。	修正	「谷津」は谷津田に加え、その斜面林を含めた樹林地（集水域）から構成されており、農地・斜面林・樹林地の保全が総合的に谷津の保全につながると考えている。 また、上記の観点及び他意見に基づき、「農地・谷津の保全」は「里地（農地）の保全」へ修正し、谷津の文言は削除した。	34
14	策定委員会	農政課	【施策体系】 里地里山環境 1-1	●「耕作放棄地の発生抑制・活用」とあるが、「活用」は難しいと思われるので、「耕作放棄地の抑制」とした方が良いのではないか。	修正	「耕作放棄地の発生抑制・活用」を「遊休農地の発生を抑制します」へ修正した。 なお、本計画では、指標や数値を把握しやすいなどの観点から、「耕作放棄地」ではなく「遊休農地」で統一することとする。	34
15	環境審議会		【施策体系】 里地里山環境 1-1	自然環境について、「耕作放棄地の発生抑制・活用」とあるが、いまの農業従事者に若者はおらず、後継者が不足している。現行の営農組織は限界の状況にあり、農地を保全し、耕作放棄地をなくすには、集落や法人化による営農組織をつくるしかない。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―
16	環境審議会		【施策体系】 里地里山環境 1-1	「ひとづくり」について、農林業の担い手の減少を課題とすると、担い手育成の人づくりを入れてはどうか。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―
17	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【施策体系】 里地里山環境 1-1	「大地」という言葉を記載してはどうか。	未修正	「大地」という表現は曖昧なため、内容としては現在の項目の中で扱っていくとする。	―
18	策定委員会	都市整備課	【施策体系】 里地里山環境 1-2	生きものの生育・生息空間の把握 「・巨樹・巨木の把握・保全」⇒「・巨樹・古木の把握・保全」	修正	「巨樹・巨木」を「巨樹・古木」へ修正した。	35～36
19	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【施策体系】 里地里山環境 1-2	希少生物の保護に関する記載がない。また、「在来種の保全活動の推進」とあるが、保全活動ではなく保全の推進が適切だと思う。印西市は環境白書で、生物多様性戦略を検討するとしているが、この環境基本計画の中に生物多様性戦略に取り組むような姿勢について記載してはどうか。	未修正	計画では個別の希少生物ではなく、生態系全体について記載していくため、「在来種の保全」に希少生物も含むものとする。	―
20	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【施策体系】 里地里山環境 1-3	「自然を生かした景観づくり」とあるがよく分からない。例えば、松戸とか市川のような都市であれば分かるが、印西市であれば自然が残っているので、自然を守る計画とか、自然を壊さないとか、具体的な言葉を記載してはどうか。	修正	施策名「自然と調和した景観づくり」を「自然と調和したまちづくり」とし、取組を「自然を活かした景観づくり」から「～本市の特徴である里地里山風景を活かしたまちづくりを推進します。」へ修正した。	38
21	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議			市内における自然環境との調和とあるが、まちづくりとか企業立地とかそういう都市の関係においても、里山を生かす、あるいは里山の生態系をネットワークとして残すということを記載してはどうか。単に田園地方を残すのではなく、都市の中でも残すことがとても大切と思う。			

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
22	環境審議会		【施策体系】 生活環境 2-2	不法残土については、現在も大沢や手賀沼水田地帯に不法残土が持ち込まれている。監視も結構だが、指導の強化も検討してはどうか。	回答	指導の強化については、同施策内の「特定事業者に対し土壌汚染防止の指導・啓発を行う～」という取組で扱うこととする。	43
23	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【施策体系】 循環型社会 3-2	資源循環に「プラスチックごみ対策」とあるが、プラスチックを使わないこと等を検討していく必要があるため、「プラスチック対策」としてはどうか。	修正	プラスチックについては、プラスチックそのものを削減すること、使用したプラスチックごみを資源として再循環させることの双方が必要であることから、施策「ごみの発生抑制の推進」に「プラスチック製品の削減」に関する取組を追加した。	52
24	策定委員会	クリーン推進課	【施策体系】 循環型社会 3-2	施策内項目と統合 「3-2 ごみの発生抑制の推進」と「3-3 ごみの減量化・資源循環利用の推進」を統合して次のようにしてはどうか。 3-2 ３Ｒの推進 ごみの発生抑制の推進 ごみの再使用の推進 ごみの減量化・資源化の推進 適正な処理体制の整備・推進 理由 「◇３Ｒの推進」には「発生抑制」「再使用」「再生利用（リサイクル・資源化）」の内容が全て含まれることから、施策体系とした方が良いのではないかと思われる。	修正	「3-2 ごみの発生抑制の推進」及び「3-3 ごみの減量化・資源循環利用の推進」を統合し、「3-2 ３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）の推進」とした。 各施策についても、ご意見を基にカテゴリを移動した。	51～52
25	策定委員会	クリーン推進課		各施策について ◇３Ｒの推進 → 施策体系の項目とする ◇プラスチックごみ対策 → 「適正な処理体制の整備・推進」へ移動 ◇事業者に対する適正排出・処理の指導 → 「ごみの減量化・資源化の推進」へ移動 ◇使い捨て製品の削減 → 「発生抑制の推進」へ移動 ◇ゴミ処理施設の適切な管理・整備 → ◇廃棄物処理施設の適切な管理・整備 理由 それぞれの施策の内容から、カテゴリを移動した方が良いと思われる。			
26	環境審議会		【施策体系】 循環型社会	環境クリーンに借りた不法投棄防止に関する車両マグネットは非常に効果がある。使用して半年経つが、不法投棄が減少していると思う。車は年中、大勢走っているので、困っている地域にマグネットの提供を進めてはどうか。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―
27	策定委員会	都市計画課	【施策体系】 脱炭素社会 4-1	・省エネ、再エネの推進・支援策 ⇒ 計画への位置づけを背景に10月までに次年度以降の予算措置について協議しておく必要があるのではないか。（Gカーテン、省エネ補助など。昨年度の反省も踏まえて）	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―
28	策定委員会	都市計画課	【施策体系】 脱炭素社会 4-1	・省エネ、再エネの推進・支援策 ⇒ 再生可能エネルギーの活用について、公共施設での使用電力の切り替えや施設改修時の太陽光パネル等の設置などについて、庁内エコプランに基づき管財課をはじめとする関係課と積極的に協議（予算編成作業前）していく必要がある。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―

No	会議名	発言者	箇所	ご意見	対応	素案への対応方針	素案該当ページ
29	策定委員会	都市計画課	【施策体系】 脱炭素社会 4-1	・庁内エコプランの整合・見直し ⇒　地球温暖化対策計画及び地域気候変動適応計画を内包するということで、当該内容に排出削減目標等を掲載する場合、整合を図るため、同時又は早期に庁内エコプランも見直していく必要がある。	未修正	庁内エコプランの見直しについては、必要に応じて検討する。	―
30	環境審議会		【施策体系】 脱炭素社会 4-1	脱炭素社会について、「庁内エコプランの推進」とあるが弱い気がする。庁内の取り組みだけでは不十分だと思う。印西市の事業者が実施する脱炭素に向けた取組について把握してはどうか。 把握することで、課題が見えてくる。それに対して対応するか条例を定めるかを検討した方がよいと考える。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―
31	策定委員会	都市整備課	【施策体系】 脱炭素社会 4-3	「緑うるおうまちづくり」の体系が「脱炭素社会」にひもづくことに違和感がある。「自然環境」や「生活環境」にひもづくのではないか。	修正	ご意見を踏まえ、「緑うるおうまちづくり」は基本目標1（自然環境）の「個別目標3　暮らしと自然のつながりの確保」に該当する内容と考えられることから、「緑うるおうまちづくり」の各取組を「自然と調和したまちづくり」の取組に統合することとした。	38
32	策定委員会	都市計画課	【施策体系】 脱炭素社会 4-3	◇開発行為や道路整備等の規制 無秩序な開発・整備を防止して緑を保全していくといった意味合いだと考えられるが、「道路整備等の規制」という表現は分かりづらいので、『開発行為の規制等による土地利用の適正な誘導』といった表現にするか又は、削除してはどうか。	修正	ご意見を受け、「道路整備等の規制」を「開発を行う事業者に対し、～開発行為の規制等により土地利用の適正な誘導を行い、～」へ修正した。	38
33	策定委員会	都市整備課	【施策体系】 脱炭素社会 4-3	緑うるおうまちづくりについて、「・開発行為や道路整備等の規制」がなぜ「緑うるおうまちづくり」につながるのか。	回答	無秩序な開発・整備を防止して緑を保全していくことを目的としている。また、NO.32のご意見に基づき該当箇所を修正した。	38
34	策定委員会	都市整備課	【施策体系】 脱炭素社会 4-3	「・市民による公園管理の支援」⇒「市民による公園美化活動の促進」にしてはどうか。	修正	「市民による公園管理の支援」を「～市民による公園美化活動の促進に努めます。」に修正した。	38
35	策定委員会	都市整備課	【施策体系】 脱炭素社会 4-3	緑うるおうまちづくりについて、「・緑化運動の推進」の緑化運動とは何か。	回答	第2次計画から継続する取組としては、グリーンカーテンやコスモスの種の配布などを想定している。	―
36	印西市環境推進市民会議・事業者合同会議		【施策体系】 脱炭素社会 4-3	気候変動で雨が多くなり、崖崩れが多発することが考えられるため土砂災害等に関する記載をしてはどうか。	回答	気候変動に関連した土砂災害は、本計画に内包する「気候変動適応計画」で扱う予定としている。	―
37	環境審議会		―	町を形成するためには必ず経済を考える必要があり、環境に熱心な事業者を取り込む必要がある。資源循環では、例えば生ごみを利用して肥料を作成し、その肥料を市民や企業に販売するという事業があり得ると思う。再生エネルギーの利用促進については、利用だけでなく、例えばバイオマス発電をする企業を呼んで、印西市の電気を賄うといったことがあり得ると思う。	未修正	ご意見を基に、今後取組の検討を行っていく。	―